

## 横浜港港湾計画改訂の検討状況（中間報告）について

横浜港港湾計画は、目標年次を平成 30 年代後半とし、平成 26 年に改訂を予定しています。現在、素案の作成に向けて個別計画の取りまとめを行っています。

### 1 目標貨物量

	基準値（平成 22 年）	目標値（平成 30 年代後半）
公共全体貨物量	7,100 万トン	10,500 万トン
うちコンテナ貨物量	5,200 万トン	7,800 万トン
コンテナ個数	328 万 TEU	518 万 TEU

### 2 個別計画（案）の概要

#### （1）公共埠頭計画

##### ○コンテナ埠頭

基幹航路をはじめとするコンテナ船の大型化や、貨物量の増加に対応するため、コンテナ取扱機能を集中強化します。

- ・本牧ふ頭BCターミナルの拡張
- ・南本牧ふ頭MC 3, 4 の岸壁を 800 m から 900 m に延伸

##### ○一般貨物等を取扱う公共埠頭

主力品目である完成自動車など一般貨物を効率的に取扱えるよう埠頭の機能を転換します。

- ・本牧ふ頭A岸壁をコンテナから一般貨物の取扱いに機能転換
- ・完成自動車を取扱う大黒ふ頭T 3～8 と隣接するP 3, 4 を一体的に運用できるように利用転換

#### （2）新規ふ頭計画

本牧ふ頭沖に約 140 ha の新規ふ頭を計画し、臨海部に新たな物流拠点の形成を図ります。

- ・超大型コンテナ船に対応するコンテナターミナルやロジスティクス機能等を配置
- ・市内から発生する公共建設発生土の長期受入れ

#### （3）臨港交通施設計画

増加する交通量を円滑に処理するため、埠頭間の連絡を強化します。

- ・新規ふ頭に接続する臨港道路

#### (4) 臨海部における賑わい創出

市民に身近な親水空間の確保や海洋性レクリエーション需要に対応するため、プレジャーボートやシーカヤックなどのレクリエーションやイベント等、水域の市民への開放を積極的に進めていきます。

- ・レクリエーション等活性化水域の位置付け

#### (5) 埠頭の再開発

山下ふ頭において、市街地との近接性などの優れた立地特性を活かし、内港地区の新たな賑わい拠点づくりを進めます。

- ・山下公園との連続性を考慮した緑地や水辺のプロムナードの配置
- ・大規模で魅力的な集客施設などの導入が可能となる土地利用への転換

#### (6) 旅客船埠頭計画

混雑する大さん橋国際客船ターミナルを補完するため、客船受入機能を強化します。また、ベイブリッジを通過できない超大型客船に対応します。

- ・新港ふ頭の岸壁を220mから340mに延伸、水深を7.5mから9mに増深
- ・本牧ふ頭A岸壁を超大型船が優先的に着岸できる多目的岸壁に転換

#### (7) 大規模地震対策施設

耐震強化岸壁を配置し、臨海部の防災機能を強化します。

- ・緊急物資の受入れを行う海上輸送の拠点を配置
- ・経済活動を維持するためコンテナターミナルに耐震強化岸壁を配置

#### (8) 小型船だまり計画

船舶の入出港や港湾の開発・維持を支援する船舶を適切に収容するため、小型船だまり計画を見直します。

- ・タグボートについては、山下ふ頭の先端部に定係場所を配置

#### (9) 環境保全

水質・底質の改善、地球温暖化対策など環境保全の取組を推進し、親しみやすく美しい横浜港を次世代へ引き継ぎます。

- ・内港地区に自然的環境を整備又は保全する区域を位置付け

### 3 今後の予定

- ・10月中旬 素案の作成
- ・10月下旬 横浜市港湾審議会へ素案報告
- ・11月～12月 パブリックコメントの実施
- ・1月～2月 原案の作成
- ・3月下旬 横浜市港湾審議会へ諮問

# 個別計画(案)の概要

